

ここに、一冊の本がある。タイトルは『人生は、燦燦と』、副題には、「校長室だより 100選」とある。本の帯に目をやる。

珠玉の言の葉が道を照らす

学校生活での発見、読書の効用、スポーツへの傾倒、地元福島への愛……。小学校から高校まで、あらゆる年代の子どもたちと向き合ってきた元校長の滋味あふれるエッセイ集。

まえがきにはこうある。

その当時、高校に勤務していた。11月上旬に、創立百周年記念式典という一大行事が無事に終了した。そこで、ふと考えた。さて、何をしようか。何かをしたくなってきた。自分に何ができるだろうか。教員生活を振り返ると、学級通信などでよく文章を書いてきた。書くことは考えることである。書くことで思考が進む。

よし、とりあえず書き始めてみるか。というわけで、令和1年（2019年）11月11日に「校長室だより～燦燦～」はスタートした。1の数字が5つも並ぶという特別な日に始めることができた。半ば、見切り発車のようなものだった。ところが、書きたいこと、考えたいことが次から次へと出てくる。書きたいことがたまっていく。結局、毎日出すようになった。原稿は、高校のホームページにアップするようにした。したがって、不特定多数の方が読者である。

毎日、書いていると、ふとしたときに文章が浮かんできってしまう。一番困るのは、夜寝る前である。今日も眠りにつこうかというときに文章が出てくる。そのたびに、忘れないようにとスマホに記録しておく。そんな生活がずっと続いた。

約5年もの間、毎日のようにエッセイを書き続けた。計画性があつたわけではない。その日そのときに考えたことを書き綴った。統一性もない。ただ、何かに引っ張られるように、誰かに押されるように、日課の一つとして、ルーティンとして書き続けた。

本書は、「校長室だより～燦燦～」と題して、2019年（令和元年）11月から2024年（令和6年）3月まで、勤務校のホームページにアップしたエッセイ1000編から厳選し、加筆・修正を行って1冊に編んだものである。各エッセイの最後にある番号は、ホームページへの発表順、タイトルは発表時のものである。

1000編の中から選び抜いた100編を、10のジャンルに分け、読みやすくしたつもりである。読者の皆様に、少しでもよりよい読後感が残ることを願うばかりである。